

2023年度 調査結果（2022年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

新型コロナウイルス禍の影響で、渡航制限や授業のオンライン化など、海外留学にも大きな影響が出ている。ディスコでは、様々な制約を受けながらも留学を継続中の正規留学生や留学を終えた交換・派遣留学生等を対象に、職業観や就職活動に関する調査を実施した。比較可能なものに関しては、国内学生（キャリアス就活・学生モニター）の調査結果を引用しながら、その特徴を分析したい。

【主な調査内容】

1. 志望業界	P2
2. 志望職種	P3
3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由	P4
4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方	P5
5. ベンチャー企業への関心	P7
6. 就職活動の情報源	P8
7. 企業研究をする上で知りたい情報	P8
8. 企業に評価してもらいたいこと	P9
9. インターンシップの経験	P10
10. 動画選考・WEB面接の受験状況	P10
11. 留学状況と留学の感想	P11
【参考】留学費用	P12

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2021年5月以降の者 11,635人

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2022年2月18日～3月9日

有効回答数：559人

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系	理系	卒業(予定)年月	全体	留学先地域・国	全体
正規留学	332	231	101	～2022年3月	190	北米	277
交換・派遣留学	192	172	20	～2023年3月	250	英国	93
語学留学	30	23	7	2023年4月～	119	その他ヨーロッパ	92
その他	5	4	1	合計	559	オセアニア	20
合計	559	430	129			アジア	77
						その他	0
						合計	559

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」より

1. 志望業界

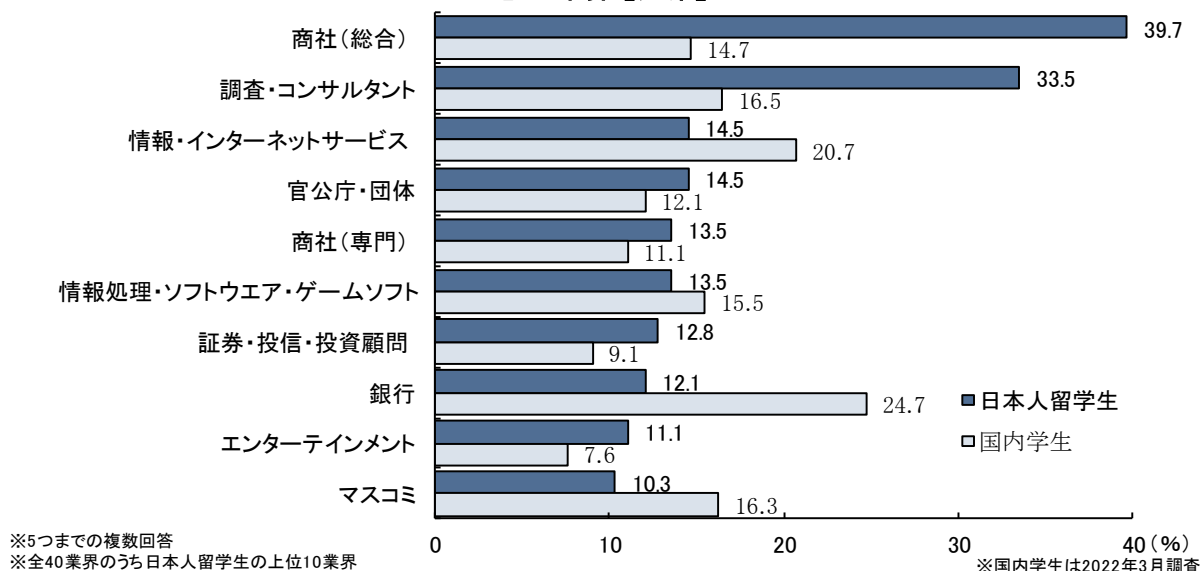
海外の大学への留学経験をもつ日本人留學生は、どのような仕事に就きたいと考えているのだろうか。志望業界や職種のほか、キャリア観などをいくつかの指標で尋ねた。

まず、現時点での志望業界を文理ごとに集計し、国内の大学・大学院で学ぶ学生（以下、国内学生）と比較した。

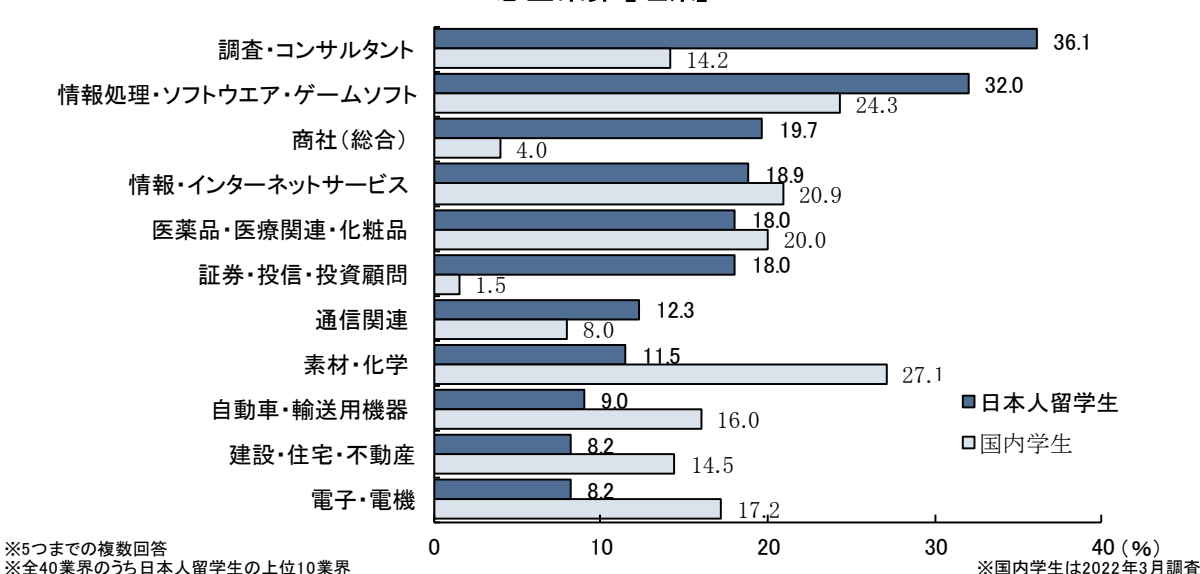
文系を見ると、留學生は「商社（総合）」（39.7%）と「調査・コンサルタント」（33.5%）の2業界に人気集中している。一方、国内学生は「銀行」「情報・インターネットサービス」が高い。

理系では、留學生は「調査・コンサルタント」（36.1%）と「情報処理・ソフトウェア」（32.0%）の人気の高い。また、「商社（総合）」の数字も高く、国内学生との差が顕著。IT業界の人気の高いのは共通だが、国内学生はメーカー志望者も多い。

志望業界【文系】



志望業界【理系】



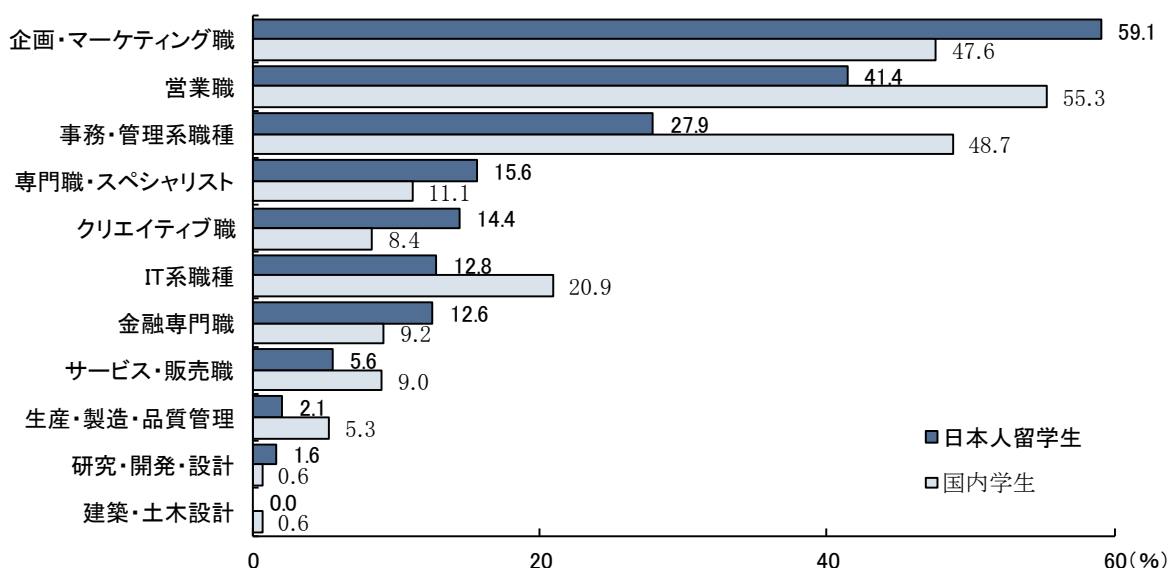
2. 志望職種

志望する職種を、11 職種から 3 つまで選んでもらい、文理ごとに集計した。

文系を見ると、留学生は「企画・マーケティング職」が最多で 6 割近くが志望 (59.1%)。国内学生に比べ、10 ポイント以上高い。続く「営業職」(41.4%)、「事務・管理系職種」(27.9%) は、国内学生の方が志望する割合が高い。

理系では、留学生で最も多いのは「IT 系職種」で 3 割強 (36.4%)。国内学生と同程度 (34.4%)。「企画・マーケティング職」(31.8%)、「専門職・スペシャリスト」(27.1%) が 3 割前後が続くが、国内学生ではそれぞれ 1 割前後。反対に「研究・開発・設計」「生産・製造・品質管理」は、メーカー志望者の多い国内学生の方が圧倒的に高く、志望業界の違いが志望職種の違いにも表れている。

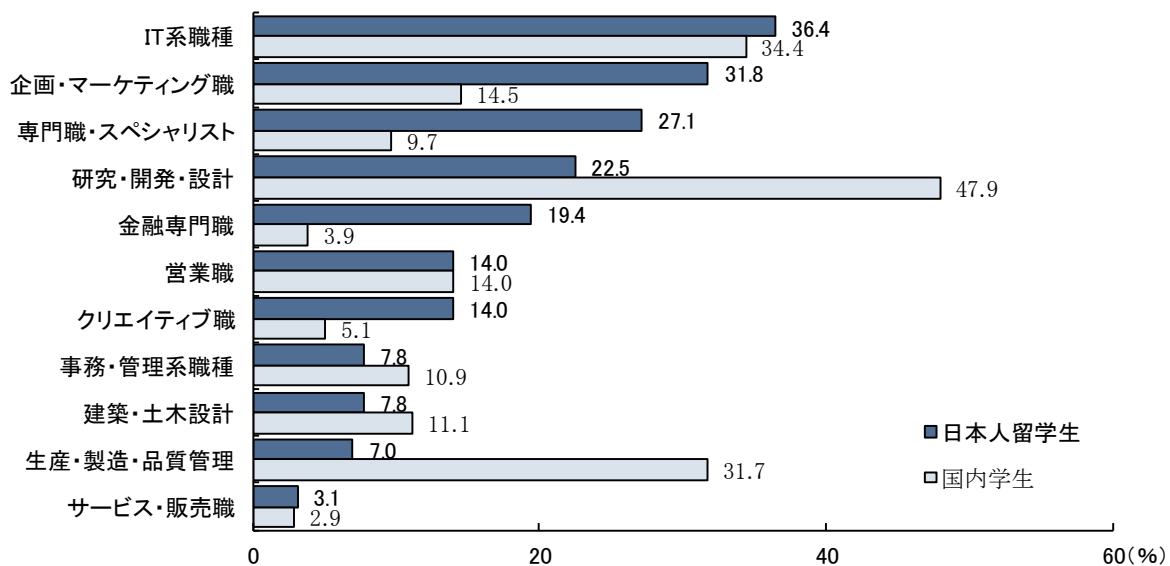
志望職種【文系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2022年3月調査

志望職種【理系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2022年3月調査

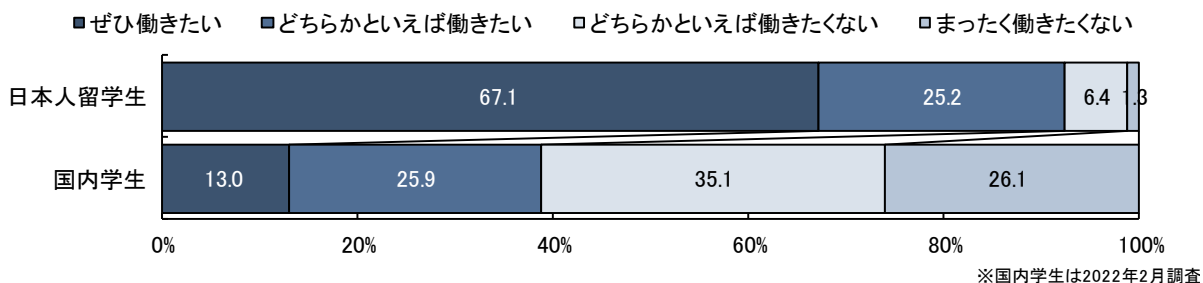
3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

日本国外（海外）での勤務について希望を尋ね、国内学生と比較した。留学生は「ぜひ働きたい」が7割弱(67.1%)。「どちらかといえば働きたい」(25.2%)も含めると9割を超え(計92.3%)、海外勤務への意欲は極めて高い。一方、国内学生はそれぞれ13.0%、25.9%で、海外勤務希望者は4割に満たない(計38.9%)。

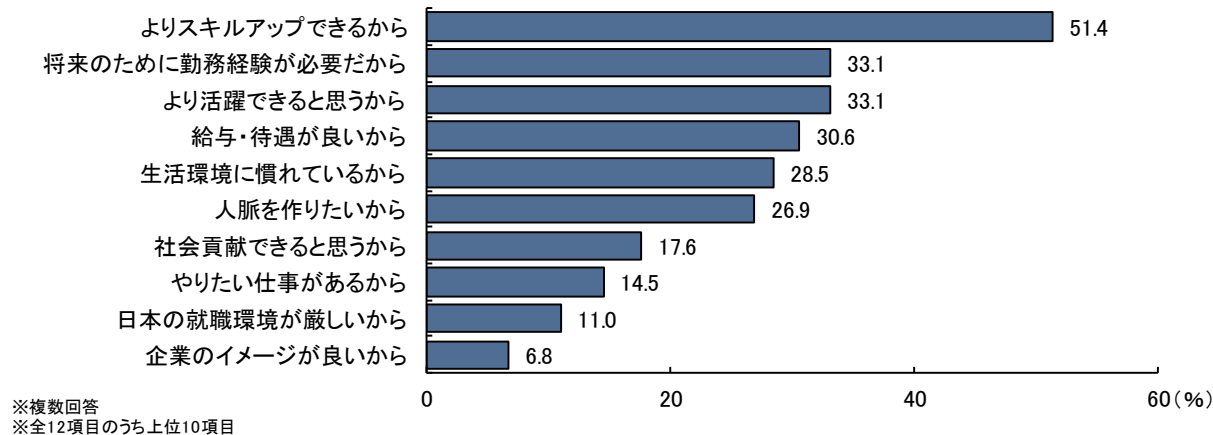
留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」が51.4%と突出して高い。次いで「将来のために勤務経験が必要だから」「より活躍できると思うから」が同率で続く(33.1%)。働くことを更なるスキル獲得の場と捉える傾向が強い様子が表れている。

働いてみたい国や地域は、「北米」(69.2%)が最多で、「ヨーロッパ」(61.2%)が続く。欧米は留学先としてだけでなく、就業先としての人気も高い。一方で「東南アジア」が4割を超えており(41.9%)、経済成長国でキャリアを積みたいと考える留学生も少なくない。

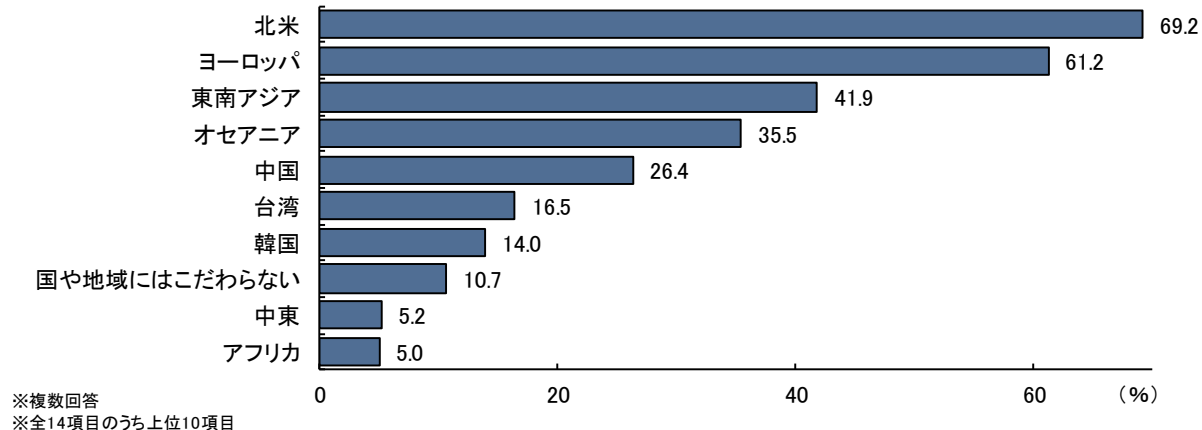
日本国外での勤務希望



日本国外で働きたい理由



将来の希望勤務国・地域

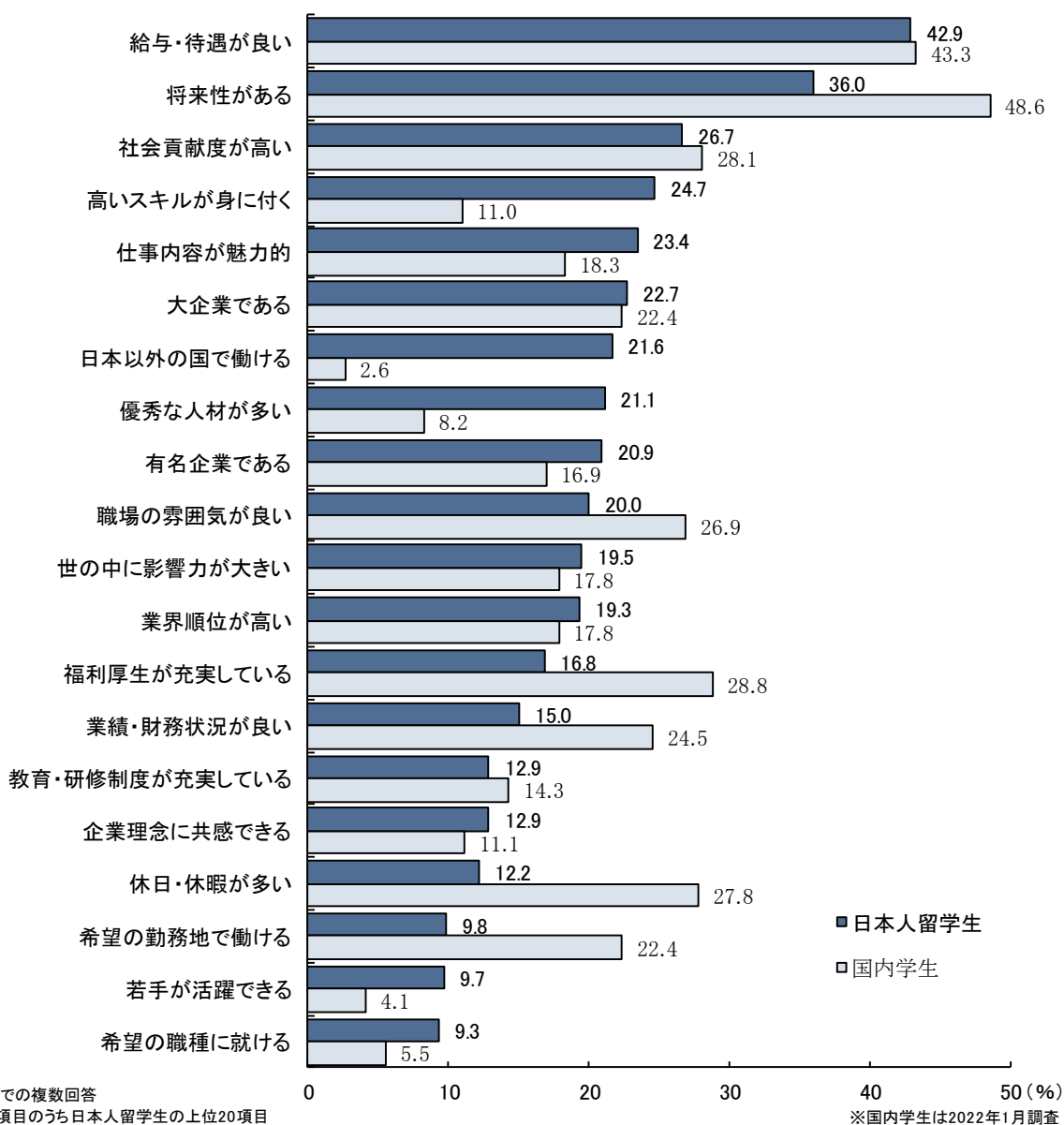


4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方

就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目から 5 つまで選んでもらい、国内学生の回答と比較した。留学生・国内学生とも「給与・待遇が良い」「将来性がある」が上位 2 位となり、留学経験にかかわらず、重視する学生が多い。

ただし、いくつかの違いも見られる。「高いスキルが身に付く」「日本以外の国で働ける」「優秀な人材が多い」といった項目は、留学生の方が大きく上回っており、自身がスキルアップできる環境を求めていることがわかる。一方、「福利厚生が充実している」「業績・財務状況が良い」「休日・休暇が多い」などの項目は、国内学生の方が上回っており、安心して働ける環境を求める学生が多いことがうかがえる。

就職先企業を選ぶ際に重視する点

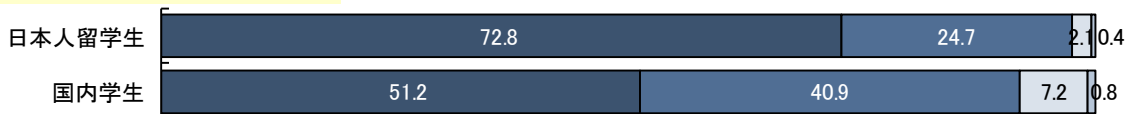


次に、就職先企業選びに、下記の 4 つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生と比較した。「(1) 仕事を通して成長できること」は、留学生の 7 割超が「とても影響する」と回答 (72.8%)。企業選びで重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」も、「とても影響する」が過半数 (54.0%) に上り、国内学生との差は顕著。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、留学生・国内学生ともに、「影響する」の合計が約 9 割と、共通して関心が高い。「(4) SDGs に積極的に取り組んでいること」は、4 項目の中では一番「影響する」のポイントが低いものの、国内学生との差は大きく、関心の高さが読み取れる。

就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

(1) 仕事を通して成長できること



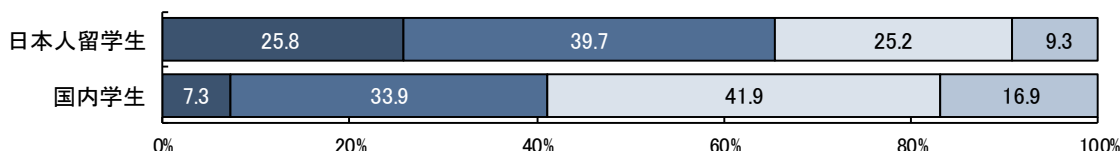
(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること



(4) SDGsに積極的に取り組んでいること



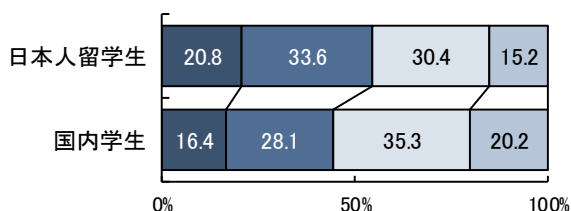
※国内学生は2022年1月調査、2021年8月調査

続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える留学生は合わせて 54.4%。「幅広い業務を経験したい」(計 45.6%) を約 10 ポイント上回る。「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」は合計で 9 割を超え (計 91.4%)、自律的にキャリアを形成したいと考える留学生が大半だ。

働き方についての考え

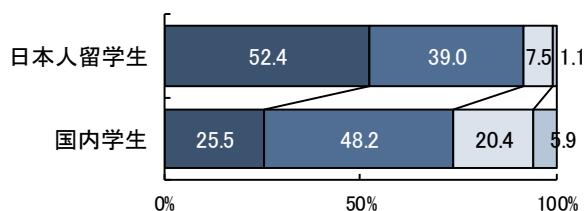
- A. 1つの分野で専門性を高めたい
B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)

■Aに近い ■ややAに近い □ややBに近い □Bに近い



- A. キャリアパスは自分で主導権をもちたい
B. 会社に任せたい

■Aに近い ■ややAに近い □ややBに近い □Bに近い

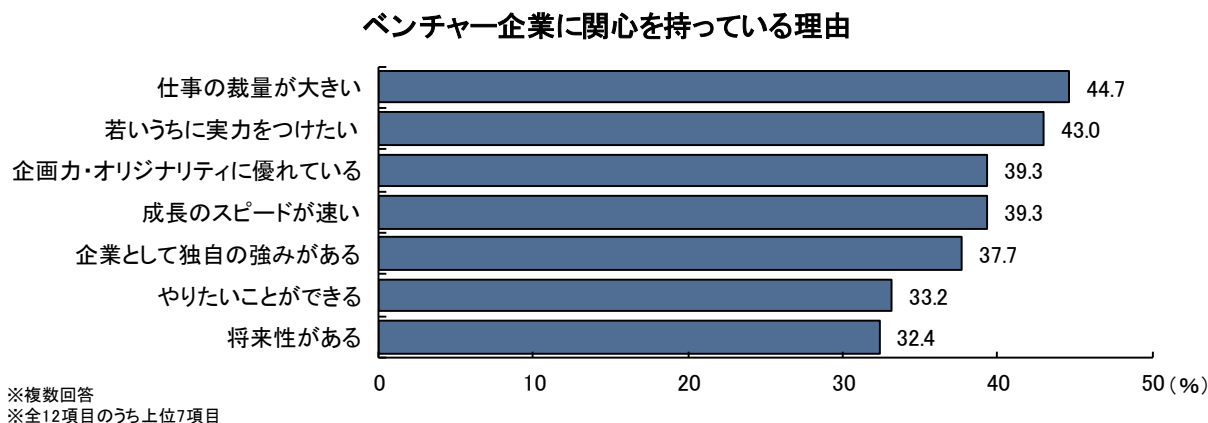
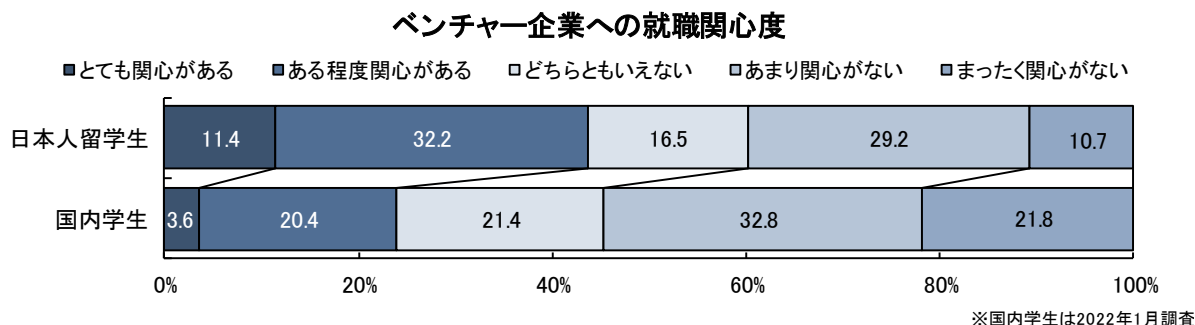


※国内学生は2022年2月調査

5. ベンチャー企業への関心

留学生と国内学生の双方にベンチャー企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」(11.4%)、「ある程度関心がある」(32.2%)を合わせて4割超が、ベンチャー企業への就職に関心があると回答した(計43.6%)。これに対し、国内学生では2割台にとどまる(計24.0%)。

留学生がベンチャー企業に関心を持つ理由としては、「仕事の裁量が大きい」や「若いうちに実力をつけたい」、「成長のスピードが速い」など、個人の成長に繋がるような項目が上位に挙げられた。スキルアップや自身の成長に重きを置く留学生にとって、若手のうちから裁量権を持たせてもらえそうなベンチャー企業の実環境は魅力的に映るようだ。



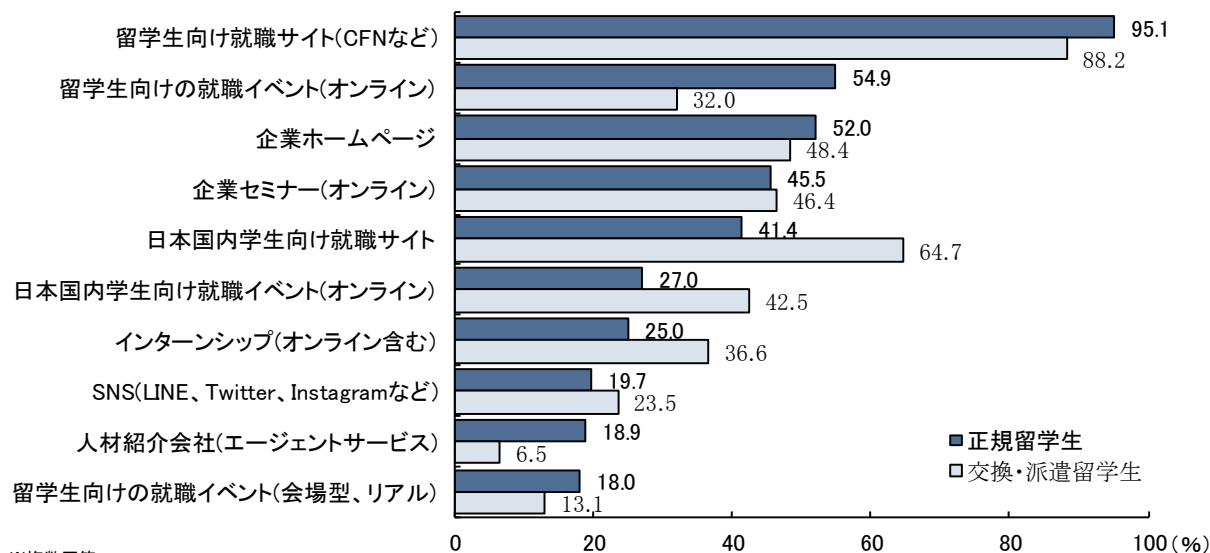
■留学によるキャリア観への影響

- 常に新しい価値観に触れるチャンスが多い環境（職場、会社等）に身を置きたいと思い始めた。 <正規留学>
- 日本の文化の良さを再認識させられたことにより、就活軸に“日本の良さが伝えられる会社”というのが追加された。 <正規留学>
- 日系企業の魅力が高まった。特に日系メーカーの強さを海外で実感したことから、今まで関心のなかったメーカーへの関心が高まった。 <正規留学>
- 会社を、給料や世間体ではなく社会貢献度や目指すビジョンを基準として選ぶようになった。 <正規留学>
- SDGsをものすごく意識するようになった。 <正規留学>
- 外資系の企業に興味が出た。また一つの会社に定年までいようという概念が大きく覆された。 <正規留学>
- 多様なバックグラウンドを持った人が多いところで働きたいと思った。 <正規留学>
- グローバルな視野を養い、もっとグローバルで活躍したいと思うようになった。 <交換・派遣留学>
- 広く社会貢献ができる仕事がしたいと考えるようになった。また、自分の語学力を使える仕事に就きたいと考えた。 <交換・派遣留学>
- 留学したことで、日本の産業を盛り上げることができる仕事につきたいと思った。 <交換・派遣留学>
- 留学先での教授や人との出会いで、よりプロフェッショナルな仕事を目指そうと思えた。 <交換・派遣留学>

6. 就職活動の情報源

就職活動の情報源を尋ね、正規留学生と交換・派遣留学生とで比較した。正規留学生の情報収集は「留学生向け就職サイト」(95.1%)が突出して高く、「留学生向けの就職イベント(オンライン)」(54.9%)、「企業ホームページ」(52.0%)が続く。交換・派遣留学生も「留学生向け就職サイト」が最多で、9割近くに上る(88.2%)。「日本国内学生向け就職サイト」(64.7%)を6割強が選んでおり、併せて活用する学生が多いことが読み取れる。

就職活動の情報源

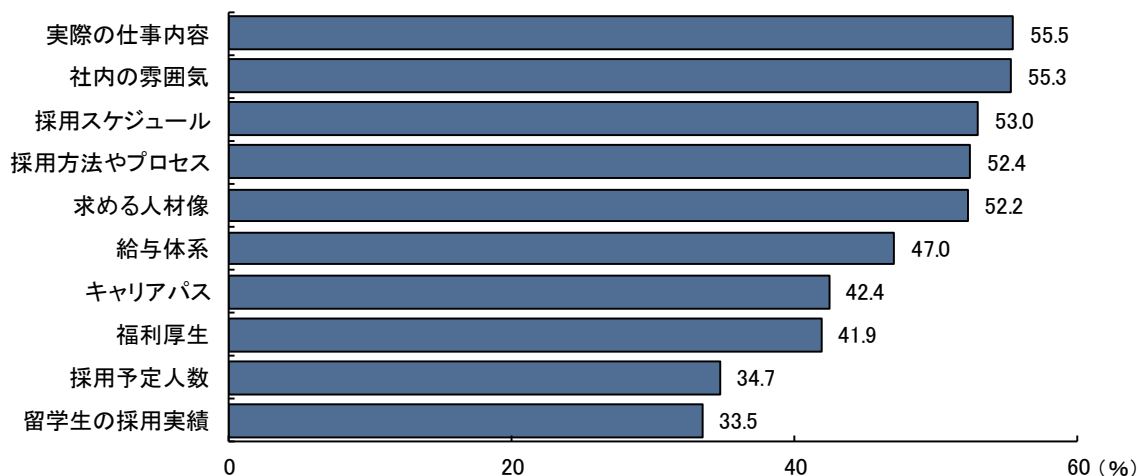


※複数回答
※全18項目のうち日本人留学生の上位10項目

7. 企業研究をする上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい(知りたかった)情報について尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」(55.5%)。僅差で「社内の雰囲気」(55.3%)が続く。オンラインを中心に企業研究を進める留学生が多いため、業務内容や働く環境について、より具体的な情報を求めているのだろう。また、「採用スケジュール」(53.0%)、「採用方法やプロセス」(52.4%)も半数を超えており、留学生に特化した採用選考の有無や時期、プロセスなどについての関心も高いと考えられる。留学生を採用したい企業には様々な角度からの情報発信が求められていると言える。

企業研究をする上で知りたい情報

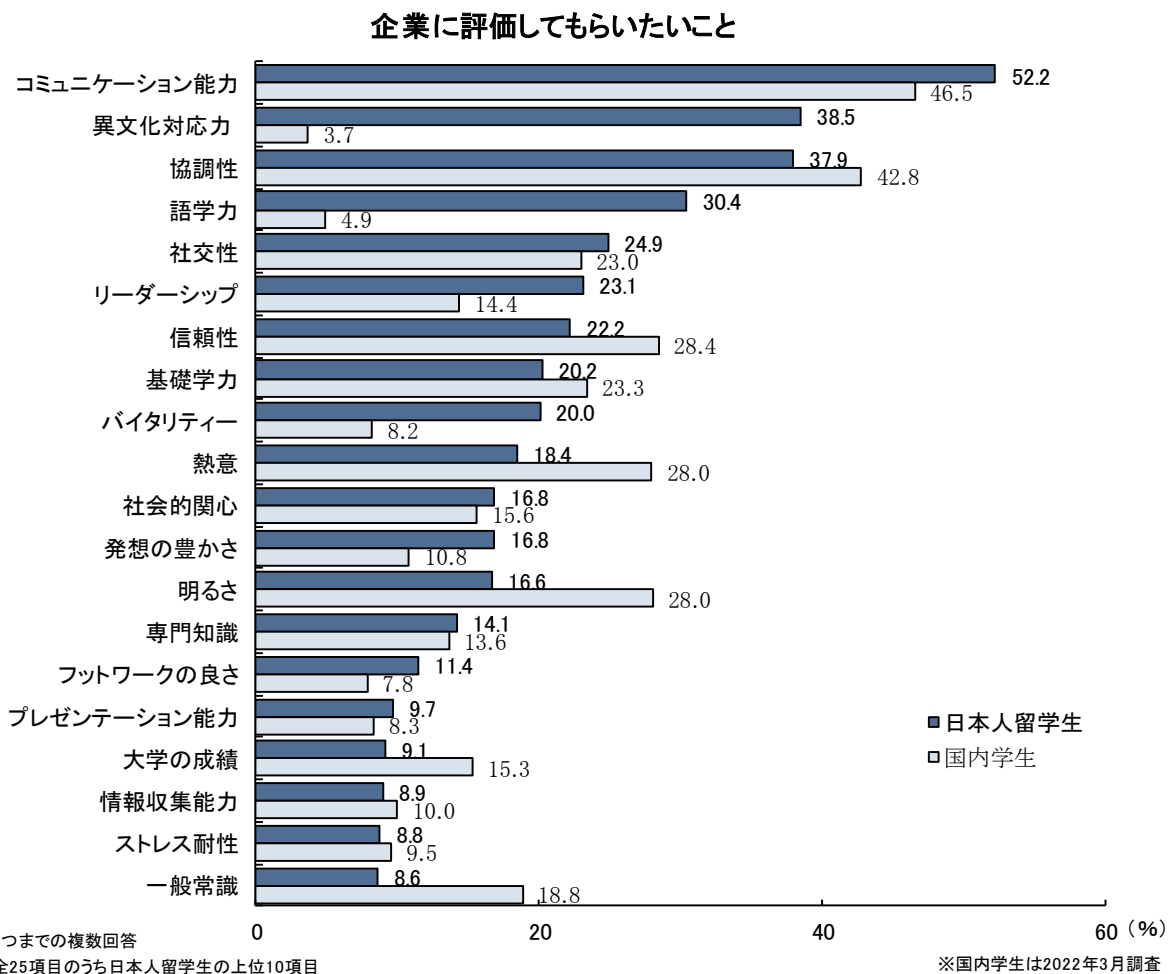


※複数回答
※全21項目のうち上位10項目

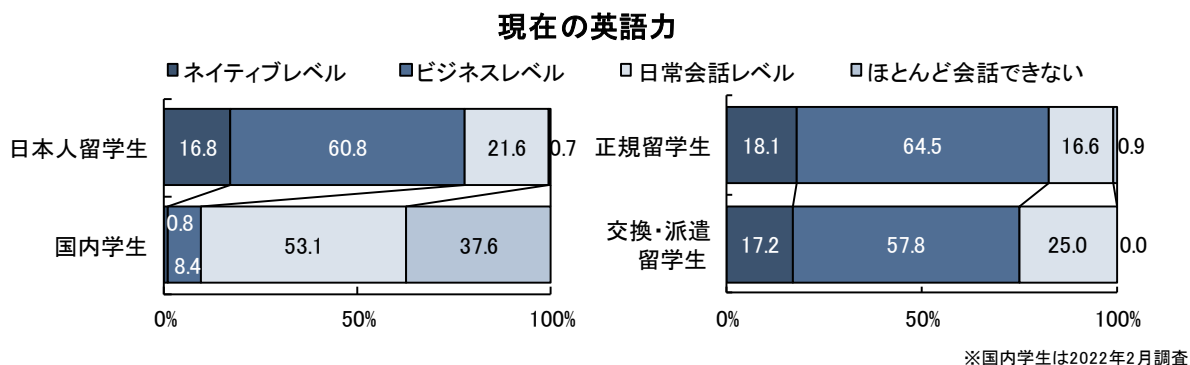
8. 企業に評価してもらいたいこと

採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生と比較した。留学生・国内学生ともに「コミュニケーション能力」が最多だが、「異文化対応力」「語学力」「リーダーシップ」「バイタリティー」などは、国内学生と比べて留学生のポイントが高いのが目立つ。留学経験を通じて向上させた能力やスキルを評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生は「協調性」「信頼性」「熱意」「明るさ」などのポイントが留学生よりも高く、自身の人柄や、会社に対する想いを評価してもらいたい学生が多いようだ。



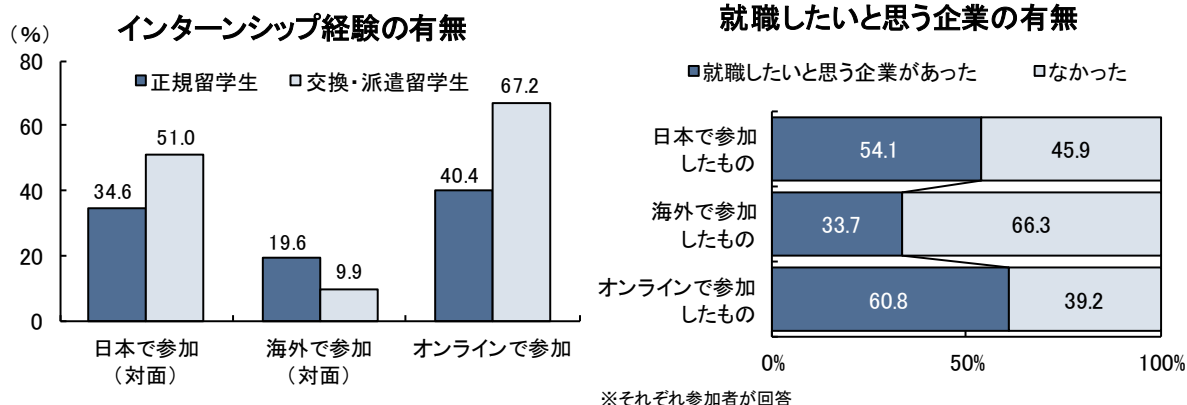
なお、留学生の現在の英語力は、「ネイティブレベル」が 16.8%、「ビジネスレベル」が 60.8%と、ビジネスで英語を使うことができるとの回答が7割強に上り(計 77.6%)、国内学生(計 9.2%)に比べ圧倒的に高い。



9. インターンシップの経験

インターンシップの経験を、就業場所・形式ごとに尋ねた。正規留学生、交換・派遣留学生ともに、「オンラインで参加」が最多。特に交換・派遣留学生の参加率が高く、6割強に上る(67.2%)。

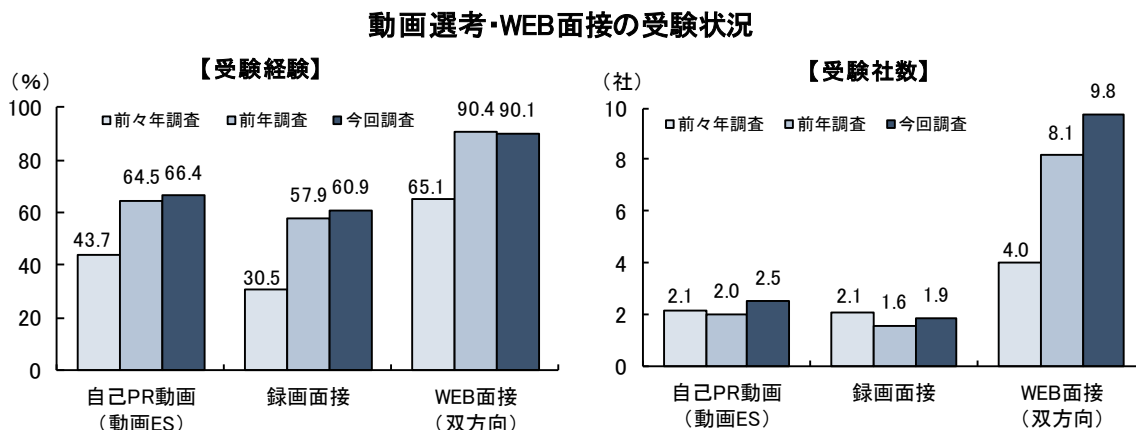
参加企業のうち、就職したいと思う企業があったかを重ねて尋ねた。経験率の最も高い「オンライン」で6割を超え(60.8%)、インターンシップの参加をきっかけに就職先として志望する学生も少なくないことがわかる。



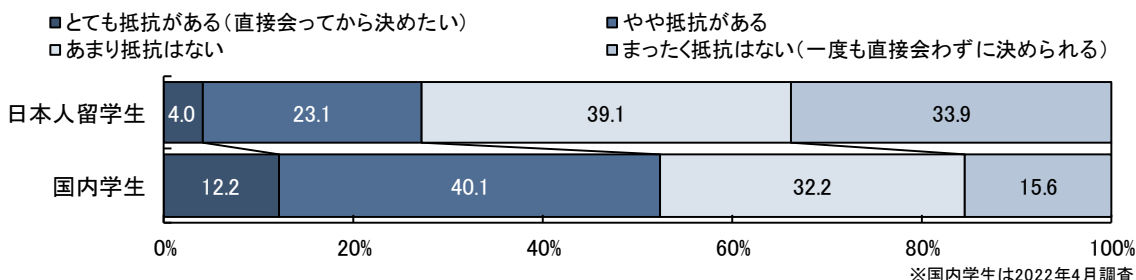
10. 動画選考・WEB面接の受験状況

動画選考やWEB面接の経験を尋ねた。最も経験率が高いのは「WEB面接」で9割に上る(90.1%)。「自己PR動画」「録画面接」の経験率は6割を超えており(66.4%、60.9%)、オンラインを中心に就職活動を進めていることが表れている。

それにより、企業側と対面での接点を持たないまま内定が出た場合、入社を決断することに「抵抗がある」は3割未満(計27.1%)。国内学生(計52.3%)と比較すると、留学生の方が抵抗感は薄いようだ。



オンラインのみの選考で入社を決断することへの抵抗感



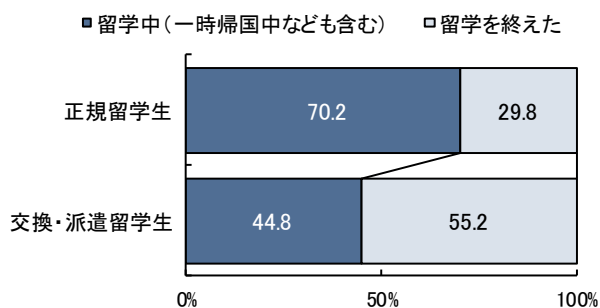
11. 留学状況と留学の感想

コロナ禍による一時帰国や渡航制限などにより、日本でオンライン留学をするケースも見られるようになったが、今回の調査に回答した留学生のほとんどは、現地で授業を受けていることがわかった(正規留学生 85.0%、交換・派遣留学生 97.7%)。

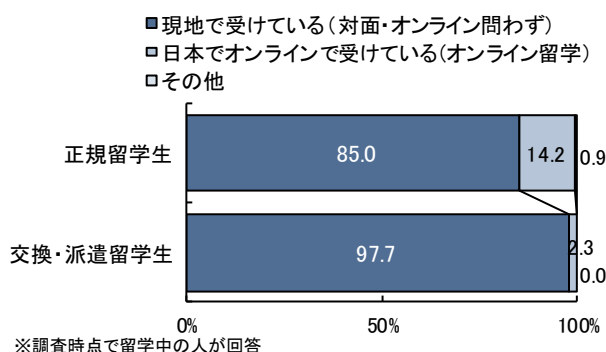
最後に、留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」が 8 割近くに上り (77.3%)、「良かった」(19.1%) を合わせると 96.4% となり、満足度は極めて高い。コロナ禍により様々な制約を受けながらも、現地での生活を経験できたことが、高い満足度に繋がったのだろう。

留学の成果としては、「語学力の向上」(81.6%)、「異文化対応力の向上」(80.5%)、「国際理解を深め価値観が変わった」(67.6%) などが上位に挙がった。グローバル人材として活躍する上での素養を、留学を通じて培うことができた留学生が多いことがうかがえる。

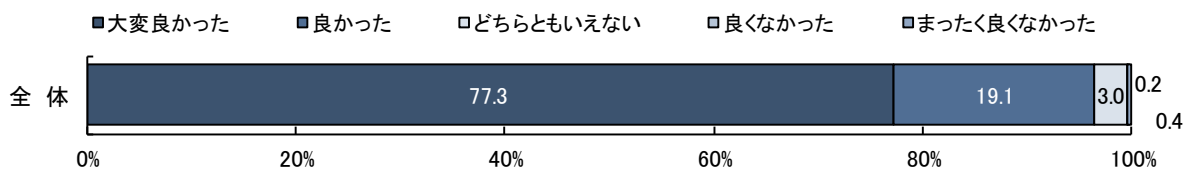
現在の留学状況



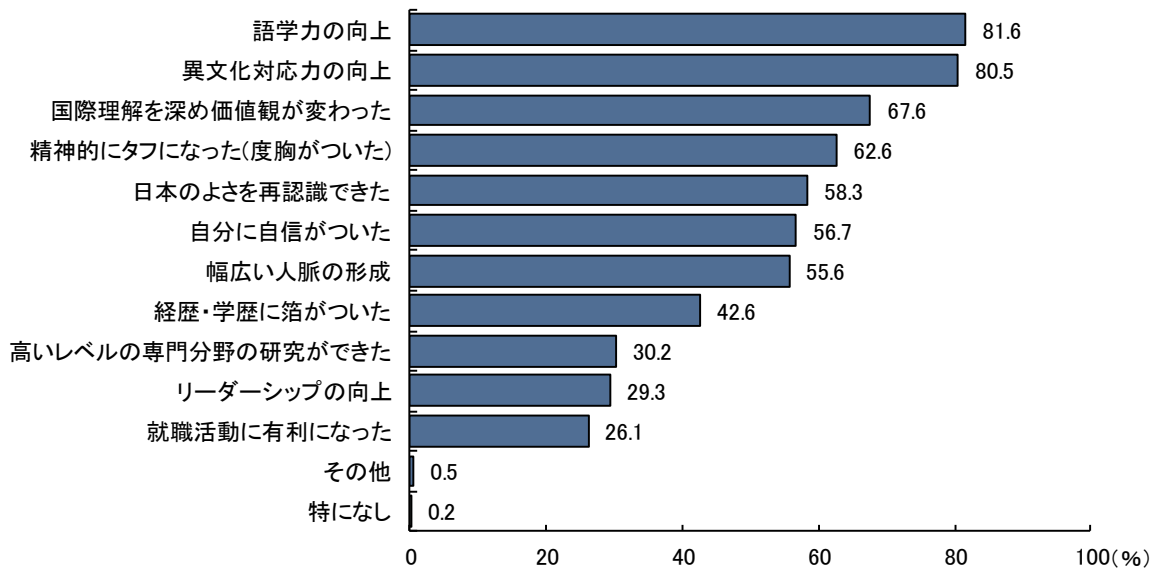
留学先大学の授業の受講方法



留学した感想



留学したことのメリット

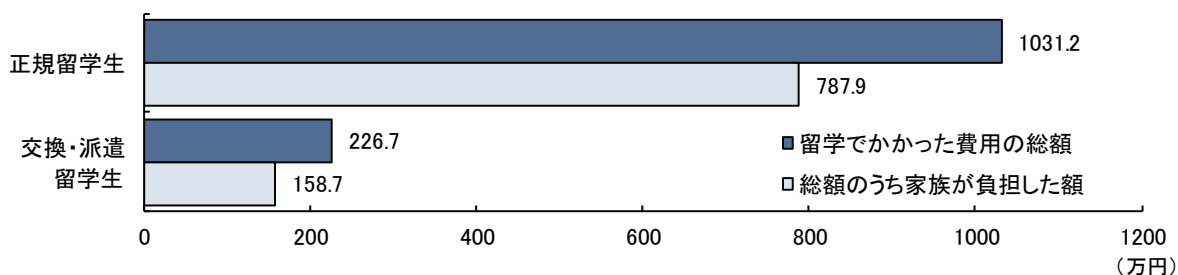


※複数回答

【参考】留学費用

留学費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額を尋ねた。正規留学生の費用の総額は平均 1,031.2 万円で、留学期間が比較的短い交換・派遣留学生（226.7 万円）の 5 倍近くになる。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、平均で 7 割強を家族が負担している。

留学でかかった(かかる予定の)費用



■留学して良かったこと

- いろいろなバックグラウンドを持っている人と知り合うことで、自分の視野が広がった。 <正規留学>
- 語学力の向上はもちろんのこと、生活上のあらゆる問題などを異国で自分の力で解決するにあたって様々な能力が身についた。 <正規留学>
- 精神的にタフになった。また、多様な国籍の人と交流し、価値観が変わった。 <正規留学>
- 日本にいた時よりも、特定の分野に対して深い研究を英語でできている。 <正規留学>
- 大学院留学のため、キャリア・学問の面で同じ関心を持った様々な年齢・国籍の学生と出会うことができ、良い人脈づくりになっている。 <正規留学>
- 語学力が向上しただけでなく、国際感覚や異文化対応力を身に付けることができ、将来のキャリアの幅が広がったと感じる。 <交換・派遣留学>
- 昔から海外やグローバルな環境に関心を持っているが、留学を通して、実際に海外でも活躍できるという自信に繋がった。 <交換・派遣留学>
- 価値観がとにかく広がった。ヨーロッパの学生の語学能力に圧倒され、帰国後のモチベーションにもつながった。自身の英語力・コミュニケーション力にも自信がついた。 <交換・派遣留学>
- 日本とは異なる環境で学習することで、積極性など、自分に足りていなかった部分を強化することができた。 <交換・派遣留学>

■留学中の就職活動で苦労したこと

- 就活と学業の両立が大変。時差によって深夜にセミナーに参加しなければいけない時は気合が必要だった。 <正規留学>
- 多くの時間を研究に割くことになったので、就職活動に多くの時間を使えなかった。面接でも睡眠時間不足の中、受けることになった。 <正規留学>
- 就活の情報を得るのに苦戦した。特に OB 訪問を行いつらかった。 <正規留学>
- 就活スケジュールがテスト期間と被ったりすることもあり大変だった。自分一人だけが就活で忙しく、精神的に辛くなったこともあったが、セルフマネジメント力が身についたと思う。 <正規留学>
- 周りに日本人の学生がいなかったので就活のスケジュール感が分かりにくかった。 <交換・派遣留学>